令和４年度　学校評価書

令和５年３月１日

福生市教育委員会　殿

福生市立福生第六小学校
統括校長　榎並　隆博印

１　今年度（令和４年度）の学校の重点的な取組

Ⅰ学校運営・人材育成

（１）運営組織の正常化

①校務分掌等の活性化を図る。

・経営会議、企画調整会議では、協議すべき内容を精選し、次代の管理職候補者育成に場としての機能をより高めた。

・各校務分掌の中心者には、進行管理を中心にリーダーシップを発揮させたことで、一人一人の意識が高まり、新たに主任教諭選考の合格者を１名出せた。

②主幹・管理職候補者等の育成を図る。

・主任教諭を中心に経営参画意識をより一層高めさせるために若手の人材育成に関わらせた。また、東京都教職員研修センターや多摩教育事務所主催の研修に積極的に参加させ、その成果を全教員の授業力向上に生かせるよう研修会等を企画・運営させた。

（２）ＯＪＴの着実な推進

①授業力等の向上を図る。

・主任教諭を講師としたＯＪＴを充実させ、受講者のみならず本人のプレゼン能力を高めさせることができた。

・年次研修を兼ねた授業は、短時間でも参観させ、授業後の助言を通して、自身の授業力向上につなげさせることができた。

・校内研究・市教研・都・市研修等に積極的に参加させたことで教員の授業力を高めることができた。

・第二中学校教員の授業を全教員に参観させ、小学校段階で身に付けさせるべき資質・能力について意識した授業を行えるようにした。

（３）服務事故防止の徹底

・週ごとの指導計画を活用した進行管理と、日常的な授業観察による年間指導計画の適切な運用を促すとともに、体罰事故防止を図った。

・服務事故事例の周知等による未然防止の意識を高める。今年度は特に、全都の課題を踏まえ「性暴力」の防止について重点的に研修を行った。

Ⅱ学力の定着と向上

（１）基礎的・基本的な知識・技能の習得とその活用能力を身に付けさせる。

①学習に意欲と興味・関心をいだき、学ぶことに価値を見出す児童を育成することを徹底した。

・改訂版「ふっさっ子スタンダード」を活用し、授業規律を定着させることに努めた。

・都及び国の調査結果を分析し「学びに向かう力」を育む授業改善に取り組んだ。

・算数少人数授業においては、習熟度別授業を確実に実施するとともに、学力向上の取組を通して児童一人一人の基礎学力の維持向上に取り組んだ。

・学習指導補助員を有効に活用し、個に応じた学習を展開した。

・管理職による授業観察・面接を通して、教師の授業力向上に努めさせた。

・週３回合計６０分の朝自習（かめタイム）の時間に、東京ベーシクドリルを活用し基礎・基本の定着を図った。

・学力に対する保護者の関心を高めるために、コミュニティ・スクール委員会や保護者会・個人面談等において家庭学習の意義について啓発した。　・

・各担任の取組として、家庭学習が学年×10 分となるよう宿題を出させるようにした。

（２）授業改善の取組

・授業改善推進プランのキーワードを「主体的な学習」「対話的な学習」「深い学び」とし授業改善に取り組ませた。

・授業改善推進プランを基に週ごとの指導計画を立てさせ、日常的な授業改善を進める上で、具体的な視点をもって授業改善に取り組ませることができた。

・都の研修会や各種の研修会に積極的に参加させ、その成果を校内研修会で共有させることができた。

（３）読書活動の推進

・毎週月曜日及び特別時程に朝読書の時間を設定し、年間を通じて読書活動に取り組んだ。

・読書旬間を設定し６月・１１月・２月の朝自習の時間に朝読書を行わせた。

Ⅲ人権教育の推進

（１）いじめのない学級・学校づくりのためのいじめの未然防止と早期発見のための取組を推進

・人権教育担当の指導部主任指導主事を講師に招き、「人権プログラム」を用いた研修を行い、人権に配慮した学級経営の徹底を図った。

・東京学芸大学教授を招き、特別支援教育に関わる理解に基づくいじめの未然防止についてを研修を行った。

・児童理解夕会を活用し、いじめの実態把握や直近の児童の状況を報告し合い、学校が一体となった生活指導等に取り組んだ。

・情報共有シートを活用し、家庭環境等を含めた児童の様子を理解し合った。

・ふれあい月間のアンケートを活用し、面談による聞き取りを行い問題解決にあたった。

・学校公開参観者の制限を無くし、保護者・地域に児童の様子を見ていただいた。

（２）一人一人に応じた適切な指導の充実と関係諸機関との連携による特別支援教育の推進

・支援チーム（特別支援教育校内委員会）を活用し課題をかかえる児童や配慮を要する児童へ

の対応・支援を組織的に行い、いじめや不登校児童の解消、改善を図った。

・やまなみ教室と通常の学級の連携を密にし、児童の学校適応を推進した。

・かめのこ学級（情緒障害・自閉症特別支援学級）の児童の通常学級への交流学習を積極的に推進した。

（３）すすんで体を鍛え健康な体を育成する

・なわとびや持久走旬間を設定し、運動に親しむ児童の育成に取り組んだ。特に持久走旬間は年間を通して３回行い、児童の意欲向上を図った。

・体力調査の結果を活用し、体力向上に努めた。

Ⅳ特色ある学校づくり

（１）安全教育の推進

・都の研究指定を受けて取り組んだ成果を生かしながら、「危険を予測し回避する能力」「他者や社会の安全に貢献できる資質や能力」の育成することを全教員で共有し、育成に取り組んだ。

・校内の安全な環境整備を進めた。

・地域・家庭への啓発、保護者による登下校見守り活動の継続・発展を促した。

（２）コミュニティ・スクールとしての取組を推進する

①コミュニティ・スクール委員会を中心とした取組の推進

・学力調査の結果をプレゼンし、現状の把握と今後の取組について理解を得ることができた。

・新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を講じた各種学校行事の実施について理解と協力を得ることができた。

・３年ぶりにコミュニティ・スクール委員会を中心とした「六ちゃん池」の清掃を行い、教職員との交流の場となった。また、PTA も交えてコミュニティ・スクール委員主体の「六小祭り」も復活した。

②積極的な学校公開の推進

・新型コロナウイルス感染症拡大防止策を講じた上で、動画配信等の活用により積極的に授業参観、保護者会、学校公開、運動会、道徳授業地区公開講座、学習発表会、校内書写展など学校行事を実施した。

２　自己評価の総括

◎アンケート結果の見方

【保護者アンケート】保護者アンケートで「そう思う」「だいたいそう思う」とする肯定的評価の割合

【教員アンケート】　４段階の評価を各教員が行い、その平均値として、およそ２．９以上を良好と考える。

（１）学力向上

【保護者アンケート】

子どもは、学習が理解できていると思いますか。　９２．７％

通知票は、子どもの学力や学習状況がよく分かるようになっていると思いますか。　９５．１％

【教員アンケート】

週ごとの指導計画を必ず作成・提出し、意図的・計画的な指導を徹底するとともに、週指導計画の記入内容の充実を図り指導を深める。　３．８ｐ

読解力・思考力・問題解決能力・表現力の向上を図る指導方法の工夫や改善を行っている。　３．６ｐ

かめタイム等の補習の場を効果的に活用している。　３．２ｐ

家庭学習の習慣付けを図る手だてをとり定着を図る。　３．３ｐ

適切な編成の下、習熟に応じた指導を実施し評価している。　３．６ｐ

教員の連携が図られ計画に沿った指導を実施している。　３．８ｐ

主体的・対話的で深い学びを推進している　３．６ｐ

教科・領域において言語活動を取り入れた学習をさせることができた。３．６ｐ

問題解決的な学習を進め、見通し・解決・表現力を高めた。　３．５ｐ

児童が互いに発表し合う活動を取り入れ、認め合うことができた。　３．６ｐ

児童の実態に基づいた図書指導が実施できた　３．５ｐ

①学習に意欲と興味・関心をいだき、学ぶことに価値を見出す児童を育成する。

・教員の授業改善への意欲が高く、校内研究の成果を生かすなどして、着実に授業力を高め授業改善に取り組んでいる。

・毎回の講師が工夫を凝らしたＯＪＴを開催し、充実した学び合いが行われている。

・朝自習時間（かめタイム）で、東京ベーシックドリルが活用されている。

・算数の習熟度別授業を計画的に進めることで、基礎・基本の定着が図られている。

・福生市の学力調査の結果、今年度も学力に課題があることが明確になった。更なる授業改善と家庭と連携した家庭学習の推進に努めなければならない。

・昨年度より肯定的な評価が７ポイント以上増えた。

②「読書好きな児童」を育てる。

・「福生市の先生が選んだ１００冊」を学校図書館整備したり、毎週月曜日を読書の時間に設定したりすることで、年間を通じて読書ができるようになっている。また、読書旬間も児童の読書意欲の向上に資している。

（２）安全教育の推進

【保護者アンケート】

学校は、子どもの安全対策を適切に取っていると思いますか。　９０．１％

【教員アンケート】

日常的な安全指導・定期的な安全指導で能力を育てようとした。　３．７ｐ
教科等における安全学習で能力を育てようとした。　３．６ｐ
日常的な安全指導、定期的な安全指導で資質・能力を育てようとした。３．７ｐ
教科等における安全学習で資質・能力を育てようとした。　３．６ｐ

①安全教育の推進

・安全教育の研究の成果を生かし、安全教育の取組を年間計画に位置付けていることで、教職員の意識が高くなっている。
・生活指導上の課題を抱える児童は、安全に対する意識が希薄で、更なる指導が必要である。

②セーフティ教室等の開催

・３年ぶりに通常の形式でセーフティ教室を実施することができた
・福生警察署スクールサポーター及び保護者・地域の見守り活動により、子どもたちの安全を守る取組を進めることができた。

③学校安全全体に関わる取組

・常に学校内外の安全を確保するために、管理職、教職員の巡視を実施している。
・地域・家庭と連携し、登下校見守り活動により安全に対する意識の向上が図られた。

（３）特別支援教育

【保護者アンケート】

学校は、保護者との連絡や相談を適切に行っていると思いますか。　８６．９％
子どもは、楽しく学校に行っていると思いますか。　９１．１％

【教員アンケート】

児童理解に努め個に応じた指導を実施している。　３．８ｐ
児童の適応が促進される望ましい学級集団を育成した。　３．６ｐ
通常学級と支援学級の交流が積極的に実施できた。　３．７ｐ
定期的に支援チーム会議を実施し支援策を企画した。　３．８ｐ
支援チームを通して指導理解や指導法が深まった。　３．６ｐ

①支援チーム（特別支援教育校内委員会）の支援活動の推進

・週一回の定期的な支援会議の開催により支援策の提案や組織的な対応を進めることができ

ている。不登校傾向の児童が、オンラインを含め様々な形で担任とつながるようになっている。

・外部機関（子ども家庭支援センター、ＳＳＷ、学習生活支援員、巡回相談員など）との連携を図りながら組織的に対応を行っている。

②やまなみ教室と通常の学級の連携を密にし、児童の学校適応を推進することができている。

・本校は、本年度もやまなみ教室の担当者が巡回校であったが担当者一人が常駐することができ、日常的に情報交換や連携した取組ができた。

③かめのこ学級（自閉・情緒障害特別支援学級）の児童の通常学級への交流学習を推進した。

・通常学級との交流学習の時間が増え、集団の中での学習が受けられるようになっている。

（４）コミュニティ・スクール、保護者との連携、学校公開の推進

【保護者アンケート】

学校は、保護者に教育方針や教育活動についてわかりやすく伝えていると思いますか。 ９０．３％

学校は、授業や行事を参観する機会をよく設けていると思いますか。 ９８．３％

【教員アンケート】

コミュニティ・スクール委員会について理解し、学校・保護者・地域の連携の機運を高めている。 ３．３ｐ

地域の人材・物的活用ができた。 ３．１ｐ

学年・学級だより等を適宜発行している。 ３．７ｐ

①コミュニティ・スクール委員会を中心とした取組の推進

・コミュニティ・スクール委員会を土曜日授業実施日の午後としたことから、午前中は委員の皆様に授業を参観いただき、午後協議を行うので、児童の様子を確認しながら有意義な協議ができた。

・コロナ対応が続く中、ゲストティーチャーの招聘は少なかったものの、コミュニティ・スクール委員の人脈で、お琴の体験教室が開催できた。

②積極的な学校公開の推進

・土曜日の授業参観や運動会、学習発表会等を動画配信等の工夫により適切に行えた。運動会、学習発表会に関する保護者アンケートは肯定的な評価が多かった。

・オンライン配信の活用により保護者参観する機会について、およそ９８％の肯定的な評価を得ることができた。

（５）研究の充実

【教員アンケート】

学校の経営計画の具現化に向けた職務の取組をしている。 ３．７ｐ

起案や決裁等、意志決定の在り方を理解し実践している。	３．８ｐ
分掌組織の中の自分の役割を果たしている	３．８ｐ
経営会議・企画会議に基づいた企画提案をしている	３．７ｐ
組織の意志決定は主幹・主任を中心に実施されている。	３．８ｐ
学年会・教科部会等を生かした組織的な校務体制である	３．８ｐ
研修課題を日々の指導で意識し生かし試みている。	３．７ｐ
若手教員の育成やＯＪＴに積極的に関わっている。	３．７ｐ
授業観察・面談の機会を活用し、授業改善を図っている。	３．７ｐ

①授業力等の向上を図る。

・ＯＪＴグループの取組や計画的なＯＪＴ研修会は効果的であった。特に主任教諭全員が担当した個別の研修会は、実践的な内容が豊富で効果的であった。

・東京都教育委員会指定の授業改善推進拠点校として「学びに向かう力」の育成に焦点を当て、学力調査を活用した授業改善に取り組んだことから、授業改善のために用いる手だてに明確な根拠をもてるようになった。

・ESD の視点を学習活動に取り入れることで、身に付けさせたい態度や概念を意識した授業が行えるようになってきた。

②校務分掌等の活性化を図る。

・学校の意思決定が明確になっている。

③主幹・管理職候補者等の育成を図る。

・今年度は４級職選考及び主任教諭選考に１名ずつ合格者を出すことができた。

④服務規律の徹底を図る。

・週ごとの指導計画は、１００％提出・確認を行った。

・服務事故については、常に当事者意識をもたせることで、未然防止を徹底している。

（６）その他の

【保護者アンケート】

学校は教育活動を熱心に行っていると思いますか。	９４．３％
学校はいじめのない学級・学校づくりに取り組んでいますか。	８６．５％
学校は、子どもに生命を大切にする心や社会のルールを守る態度を育てようとしていると思いますか。	９０．９％
子どもは、学校や学級で好ましい友達関係をつくることができていると思いますか。	９０．９％

【教員アンケート】

「いじめ防止月間」の積極的な取組を始めとして児童の様子や言動に目配りや気配りしている。	３．７ｐ

相手を尊重する心情や態度を指導している。　３．７ｐ
人権課題に関する指導を行った。　３．６ｐ
児童が自信をもって学習に参加できる授業を行っている。　３．８ｐ
児童があきらめずに取り組めるような指導を行っている。　３．７ｐ
児童が人の良いところを見付けるような指導を行っている。　３．８ｐ
児童が他者の思いや考えを想像できるような指導を行っている。　３．６ｐ
児童が自分の感情や考えを表現するような指導を行っている。　３．６ｐ
児童が考えの違いを認めるような指導を行っている。　４．９ｐ
児童が友達と協力して活動できているような指導を行っている。　３．６ｐ
児童が互いに尊重しよさを認め合うことができるような指導を行っている。　３．３ｐ
児童が自分への自信をもつことができるような指導を行っている。　３．２ｐ
児童が自らを律し、励まし支え合う関係を築けるような指導を行っている。　３．４ｐ
児童が自分の役割の意義を理解し、主体的に取り組めるような指導を行っている。
３．６ｐ
児童が役割を果たし、貢献していることを実感できるような指導を行っている。
３．７ｐ
児童が協力的に問題の解決に取り組めるような指導を行っている。　３．６ｐ

①人権教育の推進
・月１回行う生活指導夕会での情報共有を通して、いじめはどんな学級でも起こる可能性があるということを踏まえ、いじめを早期に発見し早期解決するという意識を高め、発生時は組織的に対応することを徹底することができた。
・新型コロナウイルス感染症拡大防止対策をしながら、たてわり班活動を始め、多くの学校行事を以前と同様の形で実施できた。
②環境教育・福祉教育を推進する。
・環境に関する教育　水の学習や市内の公園などで季節探しを実施した。
・福祉に関する教育　福祉体験学習は今年度も実施できなかった。

３　自己評価に対する改善策

（１）学校運営・人材育成
・若手教員が多い本校においては、主任教諭を中心としたＯＪＴは、人材育成に関与していこうとする意識の向上に役立つており、今後も充実させながら継続していきたい。
・新型コロナウイルス感染症拡大防止対策をとりながら、様々な工夫を凝らしながら学校行事を進めたことで、全教職員の主体性が高まった。
・都教委の授業改善推進校として、東京都教職員研修センターで中間報告を行い、その取組について評価された。

・都の研修会やこれまで作成された多様な資料を積極的に活用させる。
・主任教諭選考受験者への指導を強化し、学校経営への参画意識の向上を図る。

（２）学力の定着と向上
・朝学習を『かめタイム』と位置付け、火曜日、木曜日、金曜日の２０分間の朝学習を実施し、取り出し学習を進めるなど、基礎・基本の習熟の時間として活用する。
・改訂版「ふっさっ子スタンダード」のより一層の徹底を図る。
・毎週月曜日の朝は、読書の時間として設定する。また、読書旬間を設定しお薦め本の紹介や読み聞かせなどに取り組む。
・タブレット型端末を活用した家庭学習の充実を図り、基礎・基本の定着を図る。

（３）人権教育の推進
・生活指導夕会や情報共有シートを活用し、児童一人一人の状況を確認し、課題のある児童に共通した対応ができるようにする。
・「特別な教科　道徳」の時間の充実を図るとともに、人権に配慮した学級経営を推進する。
・不登校の未然防止を目指し、ＳＣ、ＳＳＷ、子ども家庭支援センター等関係諸機関との連携の下、チームとしての取組を進め、具体的な効果のある支援を行う。
・通常学級における特別支援教育を推進するとともに、人権教育プログラムを活用して子どもたちにとって居心地のよい学級づくりを推進する。
（４）特色ある学校づくり
①学校公開の充実
・運動会や道徳授業地区公開講座やセーフティ教室、六小祭りなどの学校行事に加えて、来年度は展覧会を実施し、六小の表現活動のすばらしさを公開する。
③コミュニティ・スクール委員会では特に学力向上のための取組について提起し、課題解決のための運営を行っていく。
・新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため実施できなくなっている取組を可能な限り復活させ、コミュニティ・スクールとしての取組を更に充実させる。
・児童の地域行事への参加を促すとともに、児童のボラティア活動を推進し地域との連携を広げていく。

４　学校関係者評価総括

・引き続き、新型コロナウイルス感染症拡大防止策を前提とした学校運営は、様々な制限を受けた中で行われたが、各行事等を感染対策と実施方法を工夫しながら行ったことで、保護者アンケートの結果「そう思う」「だいたいそう思う」と答えた肯定的な評価は概ね９０％前後の数値を得た。中でも「子どもは学習が理解できている。」という問いに対して昨年度より７ポイント以上高い回答を得たことは、本校が児童の学力向上に尽力した成果と捉えている。

・若手の教員が多い中、困難な課題を抱える児童に使命感をもって対応している。管理職が教職員の健康管理に留意し、全力で業務に当たれるための支援をしていく必要がある。
・これまで実施が難しかった、コミュニティ・スクール委員会や地域・保護者と連携した学習活動を少しずつ前に進めていく機運が高まっている。

５　学校関係者評価に対する改善策

・ときおり理不尽な要求をしてくる保護者が存在する中、保護者アンケートは、学校の取組を常識的に評価する保護者が多数であることを確認できる意味で実施する価値が大きい。適正な評価ができる方々の意見を生かし、更なる改善に取り組みたい。
・本市で取り組まれている留守電対応は、働き方改革を推進する上で非常に大きな手だてとなっている。留守電対応となる時刻以降は、教職員が安心して業務を進められるため、全体として退勤時刻が早まっている。今後も教職員の働き方改革については保護者・地域への理解啓発を進め、退勤時刻をより一層早めていきたい。

６　総括的な学校評価

・幼保小の連携による成果を踏まえつつ、小中連携の強化を図るとともに、「令和における福生市立学校の在り方検討委員会」で議論されており小中一貫教育の推進は、一人でも多くの大人が、少しでも長く子どもの成長を支える仕組として有効であると考える。
・学力向上については、課題は学びに向かう児童一人一人の姿勢を改善することが重要である。都の授業改善推進校として学力調査の結果を踏まえた授業改善に取り組んで２年目となり、少しずつ成果として表れてきたと考える。今後も、児童が主体的に学習に取り組める手だての開発を進めていく必要がある。
・学習指導要領が想定する「予測困難な時代」を生き抜く子どもたちには本当の意味での「生きる力」が必要である。自分の周りで起こっていることの課題が何で、なぜそのことが起こっているかを自らの思考と正しい判断の基、解決を図っていくには、まだまだ児童一人一人の課題認識が甘い現状ある。そこで、学習指導と生活指導の両輪を踏まえた系統的な教育活動の充実を図っていく必要がある。
・一年生入学段階で既に課題が明らかな児童が散見される。本市が進める幼・保・小中連携は本市として必然的な取組であると考える。特に近隣の保育園との連携は、より密接にしていくとともに、スタートカリキュラムの充実を図るとともに、発達障害に関する知識を共有して課題解決に協働できる仕組みづくりが必要である。
・学級や友人関係だけでなく、家庭内の何らかの要因でメンタル面に課題が見られる児童が少なからず存在する。児童の情緒の安定を保ち、思いやりの心をもって学校生活を送るために、生活指導部や支援チームを中心とした校内組織を十分機能させながら、いつも寄り添う大人が身近にいることを感じさせるための指導を行うことが重要である。
・コミュニティ・スクールとして、更に地域・保護者と連携した取組を進める。
・カリキュラムマネジメントを進めることで各学習場面が機能的に連携することを意識させ、

無駄の無い学習活動を実践させる。

・児童の問題行動の要因が多様であるため、常に新たな思考で対応策をこうしていく必要がある。
全教職員が知恵を出し合い、労力を惜しまず課題解決を図っていく。